

<全体分析>

試験時間60分

解答形式
語句選択 34 問 正誤判定 0 問 記述 24 問 論述 2 問(100 字、100 字) 計 60 問

分量・難易 (前年比較)
分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)
難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)
大問数 5 題、論述を含めた小問 60 問は昨年度と同じであった。論述問題の字数は 2 問で合計 200 字であり、試験時間 60 分は余裕があるとは言えない。

出題の特徴や昨年との変更点
例年通り、Ⅰ・Ⅱが語句選択、Ⅲが空欄補充の記述、Ⅳ・Ⅴが史料を素材とする記述・論述の問題。史料を踏まえて解答を作成する論述問題や、正解となる語句が語群にない場合に「0」と答える形式は文学部特有である。歴史総合に関する出題が昨年度の 6 問から、13 問に増加した。

その他トピックス
歴史総合問題を含め、2001 年以降の問題が小問で 10 問も出題された。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	語句選択	ヤマト政権の技術導入と政治体制・律令体制の形成と地方支配	全て基本的な単語なので、取りこぼすことなく全問正解したい。	易
II	語句選択	パレスチナ問題・同時多発テロ事件・リーマン＝ショックと同時期の日本	大半が歴史総合からの出題で、日本史受験者にとっては厳しかっただろう。パレスチナやイスラエルなど中東戦争は知っていただろうが、時の政権担当者を問うのは難しい。リーマン＝ショックは日本史でも学んだとは思いますが、その当時の内閣を問うのはやや難しい。	難
III	記述	古代～近世の元号をつけた寺院	基本的なものばかりなので、全問正解したい。	易
IV	記述 論述	豊臣秀吉の土地・身分政策 《史料》	史料(ハ)が刀狩令であることが分かれば、問 2 以外は解答できただろう。問 9 の論述は、史料(イ)から検地を通じた武士・農民統制を、史料(ハ)の刀狩令の内容から「兵農分離」を導けただろうが、史料(ロ)をどのように扱うかで迷ったかもしれない。	やや難
V	記述 論述	大久保利通の立憲政体に関する意見書 《史料》	問 3・問 4・問 7 は難。問 8 の「山川捨松」の名前を知っていたとしても、この問い方から導くのは難しかったかもしれない。問 9 の論述は、大久保利通の政体に関する考えを史料から読み取り、その政体の「長所」「短所」「評価」の 3 点を 100 字以内で上手くまとめるのが難しかっただろう。	難

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

教科書の内容をマスターするとともに、実戦力をつけるために過去問に取り組むことが重要である。それにより、出題の難度を把握するだけでなく、適当な語句がない場合に「0」を選ばせる文学部特有の出題形式に慣れることができる。さらに、Ⅳ・Ⅴで出題される論述問題に対しては、日頃から実際に解答を作成する訓練などを積み、苦手意識をなくしておくことも合格の必須条件となるであろう。歴史総合からの出題は増加傾向にあり、日本史探究と関連させながら学習することが求められている。